

設計と運営、地域を結び直す

選定委員会委員長
藤村龍至

台東区の取り組みに関心を持ち、少なくない時間を割いてご提案いただいた事業者の皆様には、選定委員会委員長としてまずは感謝申し上げます、設計や運営の実務に携わる同業者として、敬意を表したい。

谷中五丁目遺贈地設計だけでなく運営方法も、谷中五丁目遺贈地だけでなくすぺーす小倉屋の運営も、という要求の多さに加え、地域性の理解や事業としての安定性なども問われる、いささか欲張りなプロポーザルであった。今回このように要求が多くなったのは、現代のコミュニティ・スペースは設計の論理にのみ依拠するだけでなく、運営の論理も内包することが求められるからである。さらには設計者、運営者としての考え方を表明するだけでは事足りず、地域に溶け込んで地域全体に働きかけることも求められる。

今回プレゼンテーションに進んだ2組の事業者は、そのような時代の要請に一足早く応えることで実績を積んでおり、さらに谷中という地域に興味を持って応募して下さった。

優先交渉権者として選ばれた事業者の提案は、やや自らの企画ありきという印象も拭えず、地域のニーズからスタートすることを望む声もあったものの、先行して地域内に拠点を構え、地域の皆さんとの協働の実績を一定程度蓄積していることが高く評価された。また、デザインからマネジメントまで総合的にバランス良く回答されていることも高く評価された。

惜しくも次点となった事業者の提案は、地域の理解の仕方、デザインのクオリティ、他の地域での運営事業者としての実績が高く理解されたが、提案に用いられた言葉や記号がやや独特であったため、少々難解であるという声もあり、地域との協働に懸念が示される場面もあった。

選考プロセス全体を通じて、谷中地区の皆さんの本プロジェクトに対する期待の高さが感じられた。選ばれた事業者は本事業の取り組みのなかで、期待に応えて頂ければと思う。惜しくも選に漏れてしまった事業者についても他の地域等で、実績を活かした活躍が大いに期待され、今後の活動を注視させていただきたい。